

Title	神戸ケミカルシューズ産業に関する研究
Sub Title	
Author	渡辺大祐(Watanabe, Daisuke) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1224号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1224">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1224</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

渡辺 大祐

主査 古川 公成

副査 和田 充夫

山根 節

所属

古川 公成 研究室

## 神戸ケミカルシューズ産業に関する研究

本論文の目的は、神戸ケミカルシューズ産業を取り巻く環境変化と成長企業の企業行動とを分析し、ケミカルシューズ・メーカーが展開する今後の企業経営の方向性について考察を加えることである。

ケミカル・シューズ産業は、1985年頃まで輸入規制に守られた産業であった。しかし現在、規制緩和により海外メーカーとの競争が激化している。くわえて、消費者の購買動機は「生活の高質化」と「タイム&マネーセービング」ニーズに二極化し、神戸のような中間価格帯商品は売れなくなりつつある。さらに、1995年1月に発生した阪神大震災によりケミカル・シューズ・メーカーの多くは深刻な被害を受けた。これら経営環境の変化の中、国内メーカーは生き残りさえ困難な状況に置かれている。

しかしながら、厳しい環境下においても順調に成長を続けている企業がある。その成長要因を分析すると、①自社のポジションと将来ビジョンを自覚すること、②将来にむけての投資に積極的に取り組むことの2点に要約できた。これらは一見当然のことのようと思われるが、現実には簡単に行えるものではない。例えば、産地企業C社は震災後に5千万円を投資して佐賀県に新工場を建設した。売上高6億円の企業にとっては巨額の投資である。しかも、分業体制を持つ神戸を離れ、新天地で生産を行っていくことは大変な困難を伴う。この事例が示すように実行には大きなエネルギーが必要なのである。筆者は本研究を通してこのエネルギーの源は経営者の夢と事業に対する誇りであるのではないかという結論にいたった。

本論文では、神戸の成長企業4社の事例について企業行動を分析し、その成長要因の抽出し、考察を加えることで導き出している。